

平成 18 年 4 月 11 日 小瀧

物理学会 ビーム物理領域およびビーム物理研究会
インフォーマルミーティング 議事録

(敬称略)

議題

1. 物理学会 ビーム物理領域 代表、副代表の選出
2. 物理学会 ビーム物理領域 世話人の選出
3. 若手奨励賞
4. 今後の活動
5. その他

1. 代表および副代表

期間	代表	副代表
～2006 年 9 月	野田 章	田島 俊樹
2006 年 10 月～2007 年 9 月	田島 俊樹	鎌田 進

- ・ 副代表が次の代表を行なう。
- ・ 期間を 2 年と出来るかについては確認する（物理学会では期間は 1 年）。
- ・ 後の確認で、重任は一回に限りよいとのこと。

2. 世話人

期間	世話人
～2006 年 10 月	黒田 隆之助
2006 年 5 月～2007 年 4 月	小瀧 秀行
2006 年 11 月～2007 年 10 月	柏木 茂

- ・ 2006 年 11 月～2007 年 10 月の世話人については、本人の了承を得て決定する。
- ・ 2007 年 5 月～2008 年 4 月の世話人については、2006 年度のビーム物理研究会にて選出を行なう。

3. 若手奨励賞

- ・ 次回からは、物理学会の賞の一環としての位置づけ。
- ・ 募集スケジュールおよび選考基準は、今年度と同じで行う。
- ・ 規約については、4月に行われる物理学会 理事会にて承認をもらう。
- ・ 2006年の若手奨励賞
2006年11月までに決定。
2007年秋に行われる年会（北海道大学）にて講演
- ・ 2007年の若手奨励賞
2007年11月までに決定。
2008年春に行われる年会にて講演

4. 秋の物理学会 分科会

- ・ 素粒子（ハワイ、10/29-11/3）、核物理・宇宙（奈良女子大、9/20-23）、物性（千葉大、9/23-26）それぞれに働きかける。
- ・ 素粒子分野からは、「シンポジウムを一緒にという希望があれば welcome である」との話あり。APS や韓国との共催であり、ビーム物理の分野からも来るはずである。ただし、高エネルギー物理よりになるであろう。
- ・ 原子核の加速器は、核物理への興味よりになる。
- ・ プラズマ領域との共催を考えるなら、物性分野になる。
- ・ 秋に関しては、それぞれのところと一緒にシンポジウムを行なうことも考慮に入れ、野田・田島・浜・鎌田で話をする。

5. ビーム物理研究会

- ホームページの更新担当：小方（代表から情報を送る）
- 名簿管理：実務 中村、（方法については、会長・副会長・小方で相談する）
- 執行部
会長、副会長、世話人（2人）、企画担当
- 方針
 - I. ビーム物理は、ビームの加速器物理のみでなく、より広く「量子ビームの利用」への展開を入れる。会員や参加者を増やすためや、この領域の認知を高めるため、他の分野との **collaboration** が必要。
 - II. ビーム物理教育。大学生および初等、中等教育へのアピール。理科教育への応用。
 - III. 各施設公開（SPring-8、KEK、J-PARK、原子力機構 木津 等）でのデモ等をビーム物理研究会が協力して行なう。中学生くらいに分かるようにする。科学おもちゃなどによる宣伝。
- ビーム物理研究会の開催
 - I. SPring-8 での開催を毎年頼むというのではなく、他の場所での開催を考えて裾野を広げてはどうか？SP8 で隔年くらいならばちょうど良い。
 - II. 各所で資金確保に努力し、とれたところでの開催というのはどうか。事務局を引き受ける原子力機構も真剣に検討をする。
 - III. 今年度（9～11月頃）の計画を連休前までに決める必要あり。
 - a. どこで行なうことが出来るか（自分のところで出来るか）を各自考える。
 - b. 招待講演の推薦。
 - c. 研究会の柱を何にするのか。

以上。